

# 「小岩相撲甚句会」が相撲甚句を披露 小岩は相撲と深いかわり：「アー ドスコイ」ドスコイ」

相撲甚句は江戸時代の享保年間（1716〜1735）に始まり、以来300年近く唄われ続け、現在、本場所では取組みが始まる前の数分間だけテープで場内に流れるだけでなく、引退相撲や福祉、慈善大相撲などの花相撲、地方巡業の時にはよく唄われています。地方巡業が終わったとき、披露される甚句は人々の胸を打ちます。

当地巡業も本日限りヨ アー ドスコイ  
ドスコイ

アー 勸進元や世話人衆 ご見物なる  
皆様ヨ

いろいろお世話になりました お名残り  
惜しゅうは候えど  
今日はお別れせにやならぬ

〈 中略 〉

これからわれわれ一行もしばらく地方を  
巡業して  
晴れの場所出世して またのご縁があ  
つたなら  
再び当地へ参ります そのときやこれに  
勝りしごひいきを  
どうかひとえに ヨーホホイ アー 願  
いますヨ アー ドスコイ ドスコイ

江戸時代に甚句が定着していったのは、身振り、手振りで相撲の型、攻撃の型を取り入れて唄ったのが目的とされています。それゆえ甚句は派手に唄うものではなく、相撲とりの場所入り、歩く様子、四股を踏んでいる感じが出るように唄うものなのです。

相撲甚句には前唄があります。  
揃った 揃いましたよ 相撲とり衆が  
稲の出穂より なおよく揃た

アー ドスコイ ドスコイ

（23年5月26日読売新聞夕刊より）  
この前唄の美声でほればれさせ、ついで本唄の文句で感心させ、はやし唄でニヤリとさせます。本唄は古典、ユーモア、男と女、冠婚葬祭、名所甚句、相撲風物詩などバラエティに富んでいます。

松丸、中井さんらの小岩相撲甚句会のメンバーは、小岩縁りの故横綱柏戸の一周忌で甚句を披露したり、JR小岩駅にある横綱栃錦像前で唄ったこともあります。ところで東小岩の満福寺には栃錦の墓があります。大震災で墓石上の笠型が落下しました。松丸さんは、今の相撲界の体たらくを地下の栃錦が怒っているのでは、と話しました。松丸、中井さんの澄んだ音色を十分堪能させていただきます。



小岩相撲甚句会の松丸さん（右）と中井さん



写真を使って清新町の状況を説明する渡邊さん



国会議員や区議・元区議も参加した勉強会風景